

平成 27 年度 松山市立子規記念博物館における購入資料の概要

松山市では、平成 27 年 4 月に正岡子規や周辺人物に関連する資料 16 件 93 点を購入し、松山市立子規記念博物館に収蔵しました。今後、これらの資料について調査・研究を進め、平成 29 年度の正岡子規・夏目漱石・柳原極堂の生誕 150 周年記念事業（仮称）において一般公開する予定です。

■ 資料の内容と意義

（1）子規松風会稿「ふるさと」明治 28 年 9 月 6 日

*折本 2 点（上・下）、220 mm×250 mm（本紙）

松山の子規派俳句結社「松風会（しょうふうかい）」会員の俳句 30 句を子規が選び、注意事項や子規自身の俳句 5 句を記した句集である。明治 28 年 9 月 6 日、子規最後の帰省中、夏目漱石の下宿「愚陀佛庵（ぐだぶつあん）」に滞在した時期の資料である。内容は講談社版『子規全集』第 15 巻に収録。

（2）子規句評

*卷子 1 点、本紙：250 mm×3855 mm

子規の筆による長文の書簡だが、宛先は不明である。詳細は調査中であるが、子規が送られた俳句について、自らの俳句観を交えながら丁寧な批評を加えたもの。従来の文献には未掲載の未発表資料。

（3）子規居士写生画（草花図）明治 35 年 4 月 13 日

*掛け軸（半紙）1 点、本紙：313 mm×450 mm

子規の没年である明治 35 年に、椿や山吹など、身の回りの草花を描いた水彩画。子規の随筆「病牀苦語」の中でその存在は確認されていたが、現存が初めて明らかとなった未発表資料である。

（4）子規居士書齋椿図（明治 32・33 年ごろ）

*掛け軸（半紙）1 点、本紙：310 mm×210 mm

子規が書齋に活けた椿と花瓶を描いた水彩画。詳細は調査中であるが、紙を折った跡があり、また筆遣いなどから習作（練習として描いた作品）と思われる。現存が初めて明らかとなった未発表資料。

（5）子規書「水流元入海月落不離天」

*額（全紙）1 点、本紙：458 mm×240 mm

子規の門人の松田半粹（はんすい）（本名：芳次郎）に書き贈った書作品。半粹は京都の人で、明治 27 年頃より子規から俳句を学んだ。記された文言は禅問答の一節で、『禅林句集』などの文献に見られる。

（6）松田芳次郎あて書簡 計 74 通一括

*封書 56 通、葉書 18 通

松田芳次郎あての書簡群。詳細は調査中であるが、河東碧梧桐（へきごとう）や大野洒竹（しゃちく）・荻原井泉水（おぎわら せいせんすい）など、子規周辺の著名な人物の名が見られる。

(7) 子規「主観客観哲学論」草稿

* 掛け軸 (半紙) 1 点、本紙 : 266 mm×331 mm

子規が哲学論について記した草稿の断片だが、詳細については調査中である。明治 27 年 [11 月 28 日] の子規の五百木瓢亭 (いおき ひょうてい) あて書簡に本資料の冒頭部分が記されているが、ほかの部分は未発表である。

(8) 子規筆「松風会句稿」

* 掛け軸 (半紙) 1 点、本紙 : 243 mm×336 mm

松山の子規派俳句結社「松風会」の句稿の断片。計 11 句が選ばれ、子規の朱評と俳句 2 句 (明治 29 年作) が記される。また、柳原極堂の句や「松風会」会員の署名などが見られる。

(9) 子規の加藤拓川あて書簡 明治 34 年 1 月

* 葉書 1 点、140 mm×90 mm

子規が叔父の加藤拓川 (たくせん) にあてた年賀状。印刷された図柄の絵葉書に、子規が新年の挨拶を記している。『子規選集』第 10 巻に収録される。

(10) 木村天華 (芳雨) の子規あて書簡 明治 33 年 10 月 3 日

* 写真紙焼 1 点、本紙 : 164 mm×107 mm

子規門の歌人であり、鋳物師であった木村天華 (芳雨) (てんか、ほうう) が、自作のアイヌ民族の「ウカラ」(決闘) の彫刻の写真の子規に送ったもの。詳細は調査中であるが、写真の裏書には、明治 33 年の秋季彫工会に出品したものとある。

(11) -1 青木月斗の正岡律あて書簡 明治 4□年月日不詳**(11) -2 青木月斗の正岡律あて書簡 年月不明 19 日 (消印)**

* 葉書 2 点、140 mm×90 mm

関西における子規門の主要俳人である青木月斗 (げっと) が、子規の妹・正岡律にあてた葉書 2 点。大阪府箕面で子規忌を開催し、200 名も集まったことを知らせており、子規資料の写真が掲載されている。

(12) -1 高浜虚子の松根東洋城あて書簡 明治 36 年 1 月 16 日**(12) -2 高浜虚子の松根東洋城あて書簡 明治 36 年 2 月 20 日****(12) -3 差出人不明 松根東洋城あて書簡 明治 36 年 6 月 14 日**

* 葉書 3 点、140 mm×90 mm

子規の重要な門人である松根東洋城あての葉書 3 点。詳細は調査中であるが、うち 2 点は高浜虚子からの謡会の開催通知である。虚子・東洋城ともに能に造詣が深いことで知られた。

(13) 子規筆「俳句分類」浄書稿 明治 26 年 12 月 11 日

* 半紙 1 点、240 mm×334 mm

子規が古俳句の分類作業を行った記録。作成した年月日が記されており、明治 26 年 12 月 11 日と判明する。また、正岡忠三郎が資料の来歴を記した付属資料がある。

(14) 末永戯道筆「初手集（しょてしゅう） 巻」子規朱評・下村為山画 明治 29 年 2 月 24 日

*折本 1 点 本紙：240 mm×310 mm

子規の日本新聞社の同僚である末永戯道（ぎどう）の自筆俳句集。詳細は調査中であるが、子規が添削して評を入れ、子規の友人の画家・下村為山（いざん）の絵がいくつか挿入されている。冒頭には明治 29 年作の子規の句 1 句が記される。文献等には掲載されていない未発表の資料である。

(15) 夏目漱石の子規あて書簡 明治 28 年 12 月 14 日

*掛け軸（巻紙）1 点 本紙：180 mm×1142 mm

愛媛県尋常中学校の教師として松山に赴任していた当時の漱石が、東京の子規に送った書簡。近いうちに上京し、子規たちの句会に参加したいこと、子規に添削してもらうために送った俳句稿のこと、また新聞「日本」の発行停止のことなどを記す。内容は講談社版『子規全集』別巻 1 に収録されている。

(16) 藤野古白の加藤拓川あて書簡 明治 24 年 〇月 17 日

*掛け軸（半紙）1 点 本紙：155 mm×330 mm

子規の従弟である藤野古白（こはく）が子規の叔父である加藤拓川に送った書簡。文中で子規について触れており、古白が拓川から子規への手紙を言づけられたことが分かる。

■ 購入した日

平成 27 年 4 月 30 日（木）

■ 購入額

57,780,000 円（税込） * 16 件 93 点一括

■ 購入先

個人（埼玉県在住）

■ 今後の一般公開について

今回の資料には、従来の文献に発表されていない未発表のものをはじめ、詳細が未解明のものが多く含まれています。今後は、調査・研究や整理・保存作業等を進めた上で、平成 29 年度に予定している正岡子規・夏目漱石・柳原極堂の生誕 150 周年記念事業（仮）における展示会等で一般公開を行い、その後は常設展や特別展、機関誌等で積極的に公開の機会を設け、永続的な活用を図る予定です。